第130号

発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館
毎月1回15日
定価1部5円

なかさと

私たちの村

人口	8,354
男	4,116
女	4,248
世帯数	1,719

3月1日現在

昭和42年度 中里村 予算きまる

一般会計 三億五千七百十八万円
特別会計 七千四百五十四万円

昭和四十二年度の中里村予算などをきめる第一回定例村議会は去る三月十三日に招集され、六日間にわたり各議案件について審議し、二十日午後二時過ぎ閉会した。

村議会第一日目には開会冒頭村長の施政方針について所信表明があったが、この中で村長は①産業の振興②交通条件の整備③健康な村づくりの三点を施策の重点とし、明るい豊かな村づくりをめざし進みたいと力強く言明した。（概要別掲のとおり）（写真は定例村議会の一コマ）

つづいて一般質問が行なわれ、第二日目からは総額三億五千万円を超える一般会計をはじめ、国保特別会計、農業共済特別会計、簡易水道特別会計の各予算案について常任委員会及び本会議において慎重な審議が行なわれた。議決された新年度予算の概要は次のとおりであるが、予算関係のほか▽議会議員の期末手当支給条例、報酬及び費用弁償等に関する条例、農業委員会、教育委員会委員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正条例▽水沢村中里村員野小中学校組合財産、水沢村中里村国保員野診療所組合財産の処分について▽昭和四十一年度一般会計、農業共済特別会計補正予算案などが付議された。

昭和42年度予算の概要

昭和四十二年度予算は一般会計三億五千七百十八万円、国民健康保険特別会計六千二十八万六千円、簡易水道事業特別会計三百九十二万九千円、農業共済事業特別会計一千三十二万六千円、総計四億三千百七十二万一千円の大規模となり、一般会計においては前年度当初予算額に比し四千五十三万円の増額となった。内容において主な建設的投資的経費は、〈農業構造改善事業関係二千八百七十二万七千円▽林道開きく工事二千九百五十二万円▽農業施設災害復旧工事一億四千八百二万七千円▽道路橋梁災害復旧工事千五百十四万一千円などのほか▽国民健康保険特別会計繰出金四百七十万円▽国民年金印紙購買基金繰出金百十万円▽保育所、遊園地施設改築工事二百四十五万円▽火の見櫓二基三十二万円▽倉俣中使用所改築百四十万円などである。

なお一般会計予算各款別節別集計表はつぎのとおり

昭和42年度 一般会計予算各款別節別集計

（単位 千円）

	議会費	総務費	民生費	保健衛生費	農林水産業費	商工費	土木費	消防費	教育費	災害復旧費	公債費	予備費	計
報酬	2,460	111	48		564			658	360				4,213
給料	425	9,017	3,985	1,272	4,007		1,105	425	5,183	1,091			26,690
職員手当	883	4,809	2,071	627	1,933		586	208	2,585	714			14,496
共済費	48	980	452	143	472		127	48	584	130			3,005
災害補償費		10											10
賃金		1,028	1,070	254	2,282	50	663		1,529	1,524			8,400
報償費		481	273	273	21		10		231				1,289
旅費	340	1,131	360	296	809	10	143	521	498	321			4,429
交際費		600											600
需要費	163	3,533	1,165	798	1,822	13	395	368	10,179	1,858			20,314
役務費	10	495	182	90	191	3	46	12	747	130			1,911
委託料			79	499	663		500		250				1,991
使用料及び賃借料		60	63	10	142		78		688	280			1,321
工事請負費			150		56,448		7,462	220	1,400	163,368			229,048
原材料費			10			3	210		357	20			610
公有財産購入費			100		220		161						481
備品購入費		40	120	155	94		40	971	1,995	223			3,638
負担金補助及び交付金	153	1,111	1,171	1,778	3,465	528	3,792	551	2,540	248			15,350
貸付金						2,800			780				3,580
補償補塡及び賠償金		36			102		85		3	10			236
償還金利子及び割引料		5				58					11,430		11,493
投資及び出資金					30								30
繰出金			2,800	250									3,050
計	4,482	23,447	14,099	6,445	73,265	3,465	15,403	4,002	29,919	169,917	11,430	1,306	357,180

風雪と共に

齋藤大馨

ことしの寒波や風雪は近年にない凄いものだった。北日本はもとより、関東方面から、九州のはてまでも雪が降っている。とりわけ北陸地方特に豪雪の地は豪雪で、飯山線の如きは列車不通はもとより、バスの運行もストップするという日がそうとう続いた。

これは日本だけの現象ではなくアジア全体にわたり、北半球の寒波が猛暴したからであるようだ。三月も彼岸がすぐ目の前に来ているのにまだ寒さが続くのか、このまま、春暖の候に移ってくれるのか、わからない。

人はよく風雪に堪えてきたとか、風雪何十年とかいうが、風雪が一年中の最も淺ぎがたい時を代表しているようだ。一生艱苦の人生において、あらゆる障害を風雪に喩えたものである。人生全体を大きくみたら、風雪と闘って生きてゆく人間の姿かもしれない。

大自然は無限に大きく、しかも無限の力をもっている。そのなかに生きる有限的な、ささやかな生命をもつのが人間であるだから風雪に鎖され、風浪にもまれるような一生きもある。自然の恵みで生きてゆけると共にまた自然への抵抗もなくては生きてゆけない。自然への順応はつねにスムースにはゆかない。闘ってやっと生きてゆける半面もある。服従と抵抗とを、つねにくり返えさざるをえないのが人間である。ベーコンなどは、自然に従いながら自然を征服するという考え方だが、結局自然を征服することは、人間には不可能である。せいぜい闘い抵抗しながら、漸やく自然に順応して生きてゆく他に道がない。そこに人生の悲しみと喜びとがある。

いつぞや、教育テレビで「風雪」を見たことがある。風雪と闘っている人間生活をとり扱ったものである。寒い北国の雪の積ったなかで、山や海岸に苦闘しているところが、吹き次ぎと映写された。それを見ていて人間の運命の辛さ、はかなさをしみじみと味わった。雪の積った湖岸の水水に腰まで浸り、しじみ貝をとる人々。海岸の波打際の雪の積っているところで、砂利をとる数名の労働者が、トラックにそれを積んでいる。

また山奥の雪のなかで、炭焼をしている光景もあった。焼いた炭俵を婦人が背負い、急な山坂の雪道を分けて、集荷所へ運んでゆく。二人の子供が、その跡にしたがい、帰りには三人で空いた炭俵をかついで雪道を歩く。こんな山中の貧しい生活もここばかりではなく、世の中には、ほかにもたくさんあるのかと考えさせられた。さらにラッセル車が雪を散らして走ってゆくが、こんどの大雪は飯山線などではラッセル車も立ち往生した。自然の暴威の前には、人間技術の力さえ歯が立たないというところである。地球上に棲む人間には、地球のあり方が絶対に私どもの生活を支配する。科学者の言葉によれば、地球の表面温度が五万年を周期として、寒冷と温熱とをくり返えすという。今は温熱に向う時期で、これから二万五千年はだんだん暖かくなるが、それからは寒冷地に入る。それが進んだときには、氷河時代も来るらしい。なぜそのような周期が起るのか。理由はよく解らないが、太陽熱が呼吸をくり返すからかもしれない。そんなことを考えたら、人間の生もたいして執着するほどのこともない。無我の気持が、科学的事実から味える。大きくみたら人生の諸事万端も、要するに行方も知れない輪廻（りんね）の相（すがた）であるともいえよう。

だからある哲学者は「泣くも笑うも涙もしない。ただ認めるのみ」といった。しかも水恒の相において物を見る、ともいっている。非常に長い時間を見透しての生きる気持と態度である。大観すれば人生風雪の労苦も、ついにサトリの心境に融け去ってゆくようである。古歌に「ふまれても根強くしべ道菅のやがて花咲く春はきぬべし」

中里村の古文書より

桔梗ガ原 (3)

清津峡小学校長 阿部九二三郎

前稿にひき続き、もう一枚古文書を口訳する。この文書は文化十三年正月とあるから、今より百四十九年前のものである。

【桔梗原取極証文の事】

（前略）天明元年に江戸御普請役秋月弥十郎様、安藤七兵衛様が来られ、桔梗が原御新開場を見られた折、頭城郡北方村庄屋善兵衛、同郡芦牧村庄屋助右エ門外五人に、当田沢村庄屋五郎兵衛の合計八人で、右の新開場を引受け、その節右場所の畑高六十五石二斗五升二合分は引受人達に預け置き、田地にした上反別にかかわらず田高をもって右の人達に引受けさせる田定めであった。

ところが、いまだに全部が田地にならぬので、去年十二月吉畑高の分は元地主に受取らせ、新田になった部分と、着手した場所は残らず右の八人の譲り買い受けにした。ところが、新開場と決った時、頭城郡引受人達の世話で出作していたのは百姓甚助、松太郎、吉左エ門、半右エ門、惣右エ門、善助の六軒であった。このうち甚助一人が残り、他の五人は、あまりに土地が悪く、住居なりがたしとして在所へ立ち戻ってしまった。そして惣右エ門跡へ倉俣村枝郷の芋川新田の庄右エ門倅幸右エ門が、吉左エ門跡へは通り山村市郎左エ門倅利兵衛が来て、只今は三軒ある。（中略）そこで、八ヵ村相談の上、右の者達に一人につき田一反、畑二反、屋敷百二十歩ずつ手当し、幸右エ門は桂村、甚助は小原村、利兵衛は元来通り山村の人だから通り山村へと、それぞれ人別を決めた。このようにして桔梗ヵ原へ住居させることに申し定める。

ついては、

一、桔梗原へ地代等も家様は立てはいけない。

一、同所にみだりに木を植えてはいけない。実生といえども木を立てて置く者は、勝手次第に伐り取る。

一、右の三軒の者に手当した田畑、屋敷の外は高地は勿論一切切りひらきをしてはならぬ。

一、右三軒も家の周囲に木を立てて置いてはならぬ。但し三軒から願いがあったため、西の方に風よけとして杉を四、五本すつ立てることは認める。

右の通り八ヵ村長百姓相談の上取決めた上は、少しも違背してはならぬ。後のためによってくだんのごとし。

文化十三子年正月

魚沼郡田沢村枝郷
小原 幸右エ門 印
孫左エ門 印
忠右エ門 印
林右エ門 印
新左エ門 印
与三左エ門 印
荒屋敷新田 藤兵衛 印
直右エ門 印
六郎左エ門 印
通り山 吉郎兵衛 印
伊兵衛 印
文治 印
喜右エ門 印
吉左エ門 印
寄道山 作右エ門 印
茂左エ門 印
桂 永八 印
儀左エ門 印
吉左エ門 印
田中 伊兵衛 印
三右エ門 印
佐右エ門 印
茂左エ門 印

（三面よりつづき）

吹ぶく道祭の内なる思惟もそえて　涼子

亡き妻の年を数えて春寒し　海人

雅木市雪花咲かせ鉢の集団　おのえ

乳価安き拓地に生きて雪深し　土牛

雑詠五首　山崎了

夕暮のもや立ちこめる川岸の
雨も久しき如月の道
やわらかき陽差に紅き一針の
つゝじの花に春はきにけり
交通のとだえし道を出稼の
夫（つま）を見送る妻も荷を
負う
星多い冬の夜更けひっそりと
月皆白く街はしづもり
月もよし酒もまたよし秋の夜の
さえたる虫の音色も高し

———

藤原新田 与右エ門 印
茂兵衛 印

右八ヵ郷長百姓惣連判

前稿に出て来る年号と今回のとで、普請役の同じ人がわずか三年の間に二回来たことになる。あるいは古文書筆者の記憶違いであろうか。桔梗ヵ原草分け三軒の子孫は定着したろうか。

高橋村長 施政方針の概要

新年度予算の編成については国の予算も一ヵ月間の暫定予算が組まれる情勢にあったので、公共事業等は大割程度しか見込めず、したがって意のあるところを十分折込めず、あくまでも通年骨格予算であることを諒承いただきたい。しかしながら、村民生活の向上を図ることは村政の目的であり、遠大なる希望をもって明るい住みよい村づくりに努力を傾注したい所存である。

中里村の発展は産業基盤の整備が第一に必要である。これと共に交通条件の整備確保である。そして住みよい社会づくり、すなわち生活環境の整備である。この三つの柱を重点に村行政を執行したい考えである。

産業基盤の整備については、中里村の立地条件からして農業の振興なくして村の隆盛はなく、そのため第一に経営規模の拡大整備をはかることである。土地改良事業や現在実施中の清津川右岸段丘地三百八十八ヘクタールの水田計画、農業構造改善事業等によって基盤整備、規模の拡大を促進し、同時にこれによって経営の合理化をめざすものであって農協の指導体制に期待するところが大きい。このときにあたり、さきに中里農協、貝野農協の合併が実現したことはまことによろこばしいことである。農業の飛躍的な発展を期待し新たにこれから行なわれようとしている苗場山麓開発パイロット事業も単独調査費ではないが、濁川水系調査事務所の所管において調査費が組付で決定しており、十年後には夢の農業地帯実現の可能性が濃くなってきた。

商工業の面については、織物産業の振興をはかり、出バタあるいは分工場等を適切にとり入れ、これを活用し本村産業の一つにしていきたい。住民所得が増大し購買力つくならば商業経営についても心配ないものと見うけられるが、なお一層企業の発展に寄与したいとおもっている。

次に交通関係については、まず国鉄飯山線の改善を促進したい。これは関係市町村により期成同盟会を結成して運動を展開しているが、現在本省に対し十二億円の予算化を陳情しており結果は望み薄ではない。なお既に報じられているように四月から飯山線の客貨車分離、デーゼルカー運行による時間短縮、十日町飯山間一往復増発が実現することになっている。

道路については国道舗装についてこれまでも土木出張所等と密接な連絡をとり促進してきたが、必ずしも意の如く進まず住民各位に迷惑をかけてきたが、こんど建設省において直轄して行なわれることになったので、一層の努力とたゆまず運動をつづけていきたい。

県道については高田松之山大日町線の十二線が四十二年度中に本隧道までの区間を全部完成できるとおもう。したがって残された問題は本隧道の開さくであるが、南魚沼郡石打側に未完成区間二・五キロあるのでこれが改修をますます運動を強力に促進していきたい。県道田沢停車場田代線、羽倉十日町線等についても県やその筋に対し充分はたらきかけ改修を促進したい。国県道以外にも主要村道については予算の許すかぎり改修、修繕していきたい。なお昭和四十三年度着工を予定している小出万年橋改築については、今年度中に調査設計を完了したい考えである。

次に住みよい社会づくりの面についてはなんといっても村民一人残らず健康であってもらいたいと念願するものである。健康なくして明るい村づくりはできない。衛生面も一段と配慮し直接の医療も充分これを活用し早期治療をのぞみたい。中里村における疾病の現状は他市町村に比しやや多い実態であり、予防衛生に深い理解をいただきたい。村としては成人病対策、栄養改善生活改善事業等をさらに拡充していきたい所存である。福祉面についてはとくに保育所の整備に力を入れ、児童を預かり家庭においては十分産業にいそしめるよう寄与したい。今年は倉俣地区において地元各位の強い協力をいただき、へき地保育所を開設したいとおもう。最近は保育所においてもある程度幼児教育が必要とされており、次代をになう児童の健全育成のためには充分努力したい所存である。以上施政方針の一端であるが施策の実行にあたっては村議会はじめ村民各位の一層のご指導とご協力をいただきながら明るい村づくりのために努力したい所存である。

職業訓練大学校 通信講座について

職業訓練大学校（東京都小平市）では、昨年八月より「職種別再訓練通信講座」の受講申し込みの受け付けを開始し、受講者の指導を行なっている。

この講座は全国の生産現場に働く中堅技能者等に、絶え間なく進展する現代の技術革新時代の新技術に対応できる技能の裏付けとなる専門学科を通信方式の訓練で付与するために労働省で新たに開設したもので、職業訓練大学校が実施の主体となっている。いながらにして専門学科を自学自習できるので、いまっでその気持がありながら、学校がない、時間がないなどという問題も解消できるので個々の技能者のみならず、事業所からも注目され団体受講も多い。

本講座の概要を記すと次の通りである。募集職種、機械工、仕上工、鋳鉄鋳物工、機械製図工、配管工、板金工、建具工（十職種）。昭和四十二年度より更に職種拡大予定。受講資格、学歴年令を問いません。申し込み期日と訓練期間、何時でも申し込め、申し込みの翌月から起算して約一ヵ年で修了します。受講料四千円（教科書指導料含）特典、受講職種の二級技能検定試験の学科試験免除、尚くわしい案内書は、二十円切手同封の上次へ。

▽県職業訓練課
新潟市学校町一

▽新潟総合職業訓練所
長岡市土合町

▽新発田総合職業訓練所
新発田市新富町

〝春です〟気持を引きしめ交通事故をなくそう

田沢駐在所 吉越 実

降雪も一段落して春がもうそこに来たようです。雪のあるときは、事件、事故も少ないのですが、雪消えとともに増加するのが毎年のことです。警察ではこの事件、事故対策として

一、青少年の保護育成

春は人間の心まで、うきうきさせて、とかく問題を起させる環境となる。就職、入学、学期末。家族の方々は、青少年の日常に深い関心をもって下さい。

二、雪で交通量輌が少なく、交通事故ゼロ、自分を中心に、家族、親族に、交通事故の関係がありませんか。事故による悲しみは、被害者、加害者の別を問わず大問題です。お互いの注意で交通事故のないように。

三、交通安全

四月から小学校に入る一年生、保育所に入る子供の交通事故防止には、特に注意して下さい。〝人は右側、車は左側の対面交通を守り、道路の横断は左右を見て安全を確かめてから〟

四、交通法規の一部改正

本年四月一日から、新しく運転免許を受ける方、運転免許更新を受ける方は、医師の診断書が必要になりました。

◎昨年四月、田沢駐在所勤務となり、公民館報「なかさと」を通じ、交通防犯を広報してまいりましたが、三月二十五日付で北蒲原農業警察署に異動することになりました。公私共、村民の皆様に大変、お世話になりましたが、紙上をお借りして、厚く御礼申し上げます。

民宿の成功

小出 藤ノ木覧隆

皆さんも知っている石打スキー場のこと。私の知人で、五年程前に茅屋根を改造二階建てにし、客室を造り、必要な設備をして、百二十万円の資本金を投入したのですが、一冬で百万円の収入を得たのです。ここは東京方面からスキー専用列車が来ること。時間がかからない事、スキー場が急平種々有ること。宿泊料が安いこと、などの点があげられます。またスキーにきて、お嫁さんをもらっている人も多い、楽しくすべって、おまけにお嫁さんがさすく右打は雪を黄金化しています。地の利と条件を生かすことが大切のことと考えます。

金言 水無し川に魚上らず
遠水ありて鯉育つ

愛国心とは 生命の尊重

教育委員長 藤田五郎

近頃愛国心の欠如が問題になっている。これは戦争に破れて以後起った日本独特の現象であり、誠に愛うべきことである。花を愛するものは人を愛す、人を愛するものは国を愛すと言われる。花は美しいものである。人間である以上花の美しさを愛することは、本能であると思われる。花を愛することの出来る人は必ず人も愛することが出来る筈であり、又人を愛することの出来る人は国を愛することが出来る筈である。しかるに敗戦による混乱以来今の日本には、人間もそして国も愛することの出来ない人が余りにも多いのではなかろうか。今の日本には何か欠けているものがありはせぬか。どこかゆがんでは居りはせぬかとよく聞かされるが、その中で愛国心の欠如はその最もたるものであるように思われる。これは生命の尊重観にも見られるのである。生命の尊いことは誰しも認めていることは常識である。戦争放棄によりこの貴い命を直接国家に捧げることの切実感、神聖さというものが現在の社会機構の中から遊離しつつあることは、大変ありがたいことであり、大いに人生の楽しみを謳歌すべきであろう。しかるに反面凶悪犯罪で人を殺傷し自分自身もいとも簡単に殺傷される。この種の犯罪が異常の傾向にあることを案外意に介して居らぬかに思われる。数多くの人々の心理状態は想像出来ない。これに追い打ちをかけているかにさえ見られるテレビ、週刊誌等の現実は嘆かわしい次第である。これらはすべて社会環境の然らしむるところであり政府当局も頭を痛めて居り乍ら早急の善処は困難らしい。国は敗れても山河はある筈である。崇高なる日本の精神文化は忘れ去られてはならないのである。第二次世界大戦中にあの物心両面の苦労を知るものにとっては現在の日本の現実は全くの天国である。「贅沢は敵だ」という言葉通りに行動した当時の気持は日本全土を覆っていたのであることが、平和を楽しみつつある。私の心の片隅に生々しく残っている。私は立場上現在の世界情勢の多くを論することを差控えるが先日ある新聞で京大助教授の上山春平氏の論評を読んだことがある。それによると「戦争はしかけさえせねば起らぬものである。正義の戦争などというものはあり得ない」というのである。一理あるようにも思えるが深く考えると数年前のハンガリー事件、現在のベトナム戦争等を見ると大国は自分の利害次第で強力に行動出来るという驚くべき現実のもとにある現時点に於て、泰平の夢のみを追う事は許されないのではあるまいか。一月三日の朝日新聞で見たのであるが、ある高校生が現在の世界の情勢を観察して曰く「現在の世界の諸情勢から考えると民族の独立を守るためには戦わねばならないことも起り得る可能性が生れるのではないか」と言うことを、大胆率直に述べられているのを見てハッとした。そして今の若いものは等と卑計な批判は出来ないと思うと同時に若い世代の人達の中にも、時勢に押し流されない人々が大勢いることを想像して嬉しく思い且つ深い感銘を受けたのである。勿論戦争は避くべきであり起らぬことを確信している。明治は遠くなりにけり、大正も遠くなりつゝある今日、明治、大正の吾等の先輩、同輩の多くが喜んで祖国の礎となって散華して下さったことを忘れてはならない。治に居て乱を忘れずの心構えが大切である。日本は現在全く幸運にも安全な境遇にあるというだけのことであるを認識せねばならぬのではなかろうか。これから出て来る世界の戦争指導者は正義平和のために戦うとは言わずむしろ大義名分をかかげるかも知れないのである。私達の青少年時代は国家のためなら死を鴻毛の軽きにたとえた精神教育を受けて来たものであり、現在もそう言った気持から何となく脱皮し切れないのはどういうものであろうか。これこそ教育の力の偉大さというものであろう。織田信長が今川勢の大軍に夜襲決行の直前に敦盛の舞を舞い乍ら「人生五十年下天の内をくらぶれば夢幻の如くなり、一度生を得て滅せぬものゝあるべきか」と謡ったあの歌の文句と信長の心意気が私は大好きである。下天即ち仏教での三界、それは慾界と色界と無色界、その慾界が大つに分れていて一番下にあるのが四天王、下天にあるのでこれを下天（げてん）とも言う。さてその下天に於ける一日一夜は人間の五十年に相当すると倶舎論（くしゃろん）に言われているのである。あの歌の意味は人間の一生五十年というが、それは下天の一日一夜に過ぎぬと誰しも死を恐れ、生に執着しているが、一度生れた以上は必ず死ぬのが人間の運命である。僅か下天の一日一夜に過ぎぬ短い一生に執着する必要はないという意味に解される。かゝる心境で英雄信長は天下平定の愛国心にもえて活躍出来たのである。世界の偉人の一人であるところの西郷隆盛のあの有名な「国のためなら死れ」といった言は平和の時代に於ても真理であり忘れ去られてはならないと思うのである。

大東亜戦争の際、数多くの人々が愛国の大義に殉じて勇ましく悲壮な最後をとげ又誰もがその覚悟をもっていたのである。これに関連して私の思い出も戦時中陸軍省内局に在勤して大陸の戦野に再三、再四派遣されたがその都度腰に軍刀、肩に拳銃双眼鏡といういで立ちで、「行って来るぞ」と妻子に一言、夕方帰って来るような挨拶で平然と出て行ったものである。今でも妻はあの頃の私の態度が不可解の中にも頼もしいような一面無気味な思い出であると述懐するのである。これが当時の吾々の国に対する心構えであり、軍国の妻の姿でもあったのである。勿論国のために命を捧げるだけが愛国心の発露ではない。日常の職務に忠実であり、法を守り秩序を乱さず常に国家の発展に貢献すべく努力すること即ち、愛国心ではなかろうか。人を愛し国を愛し生命の尊いことを自覚し、一旦有事の際は心身共に祖国に捧げる崇高なる精神に徹し、祖国日本の永遠の平和を願と発展、ひいては世界平和を願心より祈念せねばならぬと思うものである。

人生往来

◎産声

子の名	父の名	部落名
大島 秀人	幸蔵	芋川新田
高橋 信子	昭次	上山
井ノ川浩子	正則	田中
滝沢かおり	幸一	田中
上原 秀昭	政和	上山
樋口美奈子	浄	朴木沢
桑原 博	荘司	東田尻
中島久美子	清一	本屋敷
大島 晃	清正	牧畑

◎高砂

〈新郎〉	山田 美沢（二九）東京都	
〈新婦〉	広田 チエ（二七）小原	
〈新郎〉	鈴木 正敏（二七）東京都	
〈新婦〉	樋口 モト（二四）荒屋	
〈新郎〉	鈴木 照政（二七）重地	
〈新婦〉	村山ヒロ子（二二）程島	

◎帰天

	氏名	年令	部落
	小林 藤一	（八二）	荒屋
	井ノ川フヨ	（七九）	如来寺
	吉楽 リト	（八九）	上山
	山田 マス	（八四）	清田山
	高橋由美子	（〇）	倉俣
	鈴木 トノ	（八四）	置地

なかさと文芸

〈三月投句〉

直春

留守まもる主婦たくましき雪おろし
三代
織り上がる紬模様で春陽待つ
閑史
頬ずりをしてかめにさす猫柳
芒月
退校子雪おろしの母よ心暮れ
由記
雪壁のすれすれにハンドル夕霧
ミチ
日溜りや口笛だけが春の唄
秋子
おさたたく両手にしみて春遠し

春枝

単調につらつらのしすくており機
玉泉
早春や大河を敷きて村静か
えつお
水潦を許しつ石文を読ませ終う
露丘
雪模消えて春灯頼ち合ふ
大泉
蜆殻積む子期末の試験終ゆ
一枝
彫刻の無心の母子に春つつら
キミ
雪まつり日夜を競ふ魔神いて
（四面へつゞく）

春雷

一片が髪になまめく春の雷